

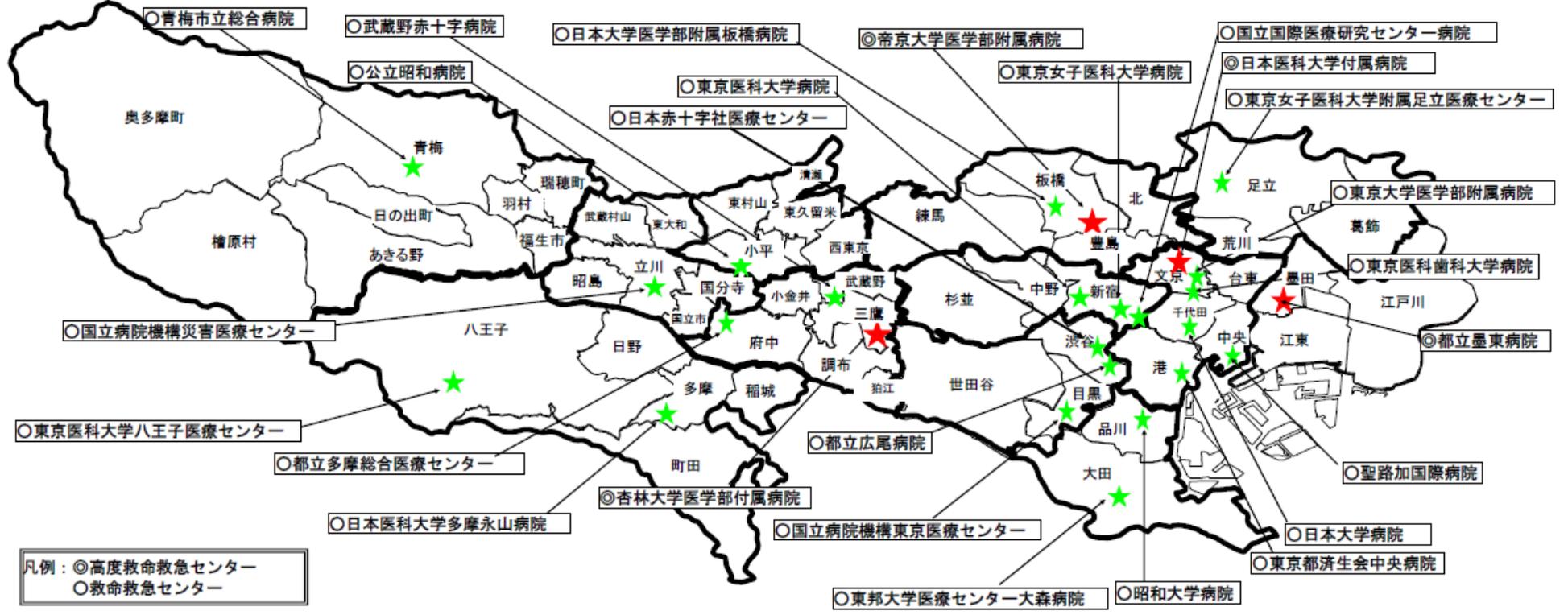
三次救急医療体制の拡充について

1 救命救急センターの現状

- 重篤な救急患者に対し、高度な医療を総合的に提供する医療機関として都が指定
 - ※ 都内26病院（うち、広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等に対応する高度救命救急センター4病院）

救命救急センター配置図

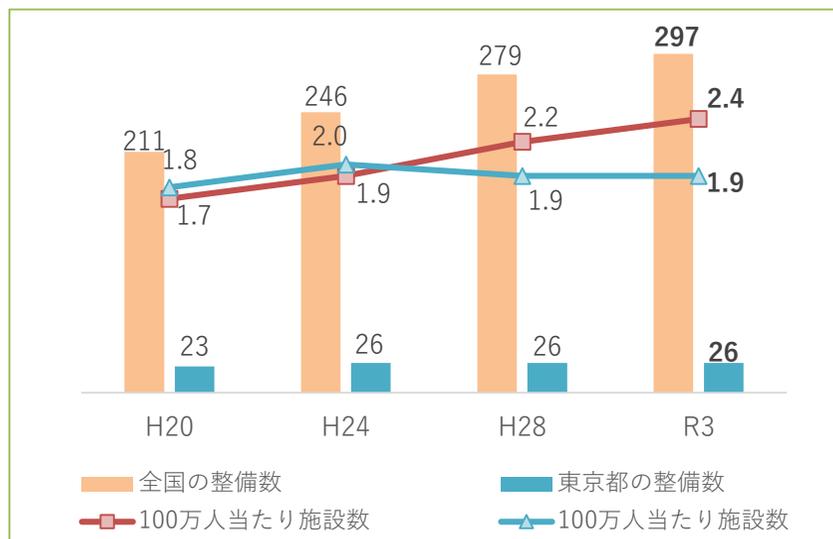
令和4年4月1日 現在



2 救命救急センターの拡充

- 都道府県の保健医療計画に基づき、都内全域を一つの圏域として救命救急センターを整備している
- 都においては、平成24年に済生会中央病院を救命救急センターに指定後、新規指定をしていないため、人口100万人に対する施設数が全国平均が2.4施設に対し、1.9施設と少ない
- 救命救急センターは新型コロナウイルス感染症の拡大時に重症患者を受入れるなど担うべき役割が増加している

救命救急センターの施設数（全国平均・東京都）



(国への現況報告に関する全国調査より)

3 救命救急センター指定の考え方

○ 指定に当たっての考え方

※平成18年10月救急医療対策協議会報告「新たな救命救急センターの整備のあり方」

a 救急医療を担う人材育成可能な病院であること

- ・救急医療分野の教育体制が充実している大学附属病院
- ・日本救急医学会が認定した救急専門医の育成にふさわしい専門医指定施設 等

b 地域の医療機関や医師会との医療連携を強化していること

○ 指定に当たっては、

地域における三次救急医療機関の所在地のバランスを踏まえ、整備を進める

4 候補医療機関

・ 順天堂大学医学部附属練馬病院（区西北部）

▷ 順天堂大学医学部附属練馬病院は、

現在も多くの重症患者を受け入れており、専門性の高い救急スタッフや救急設備も十分に確保されている
また、区部の西側における救急医療体制の強化を期待できることから
候補医療機関とする

○開設日 平成17年7月1日

○救急告示になった日 平成17年8月1日

○総病床数 490床

○救命救急センター指定予定病床数 26床

○診療科 内科、消化器内科、消化器外科、循環器内科、外科、整形外科、脳神経外科、
リハビリテーション科、小児科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、
麻酔科、神経内科、精神科、小児外科、形成外科、リウマチ科、乳腺外科、腎臓内科、
内分泌糖尿病内科、血液内科、救急科、歯科、心臓血管外科、臨床検査科

○救急部門における救急車受入状況 5,723件（令和3年度）、5,338件（平成31年度）

○スタッフの有資格者数 日本救急医学会指導医数3名、専門医数10名

○地域の医療機関と定期的に症例検討会を開催するなど、地域との医療連携を強化している

- 東京慈恵会医科大学附属病院（区中央部）

▷ 東京慈恵会医科大学附属病院は、

多くの病床・診療科を有し、専門性の高い救急スタッフや救急設備が十分に確保されている

また、区部東側には、関連病院である東京慈恵会医科大学葛飾医療センターがあり、

二次救急を担っている

大学附属病院を救命救急センターに指定し、葛飾医療センターと密接に連携することで

区部東側における救急医療体制の強化を期待できることから候補医療機関とする

○開設日 大正11年2月1日

○救急告示になった日 昭和40年3月18日

○総病床数 1,075床（精神病床49床含む。）

○救命救急センター指定予定病床数 20床

○診療科 内科、小児科、精神科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、歯科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、産科、脳神経内科、呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、消化器外科、循環器内科、血液内科、血管外科、心臓血管外科、婦人科、小児外科、歯科口腔外科、内分泌代謝内科、腎臓内科、肝臓外科、乳腺外科、病理診断科、救急科

○救急部門における救急車受入状況 4,514件（令和3年度）、5,316件（平成31年度）

○スタッフの有資格者数 日本救急医学会専門医数6名

○地域の医療機関と定期的に症例検討会を開催するなど、地域との医療連携を強化している

5 救命救急センター指定に向けた試行について



【試行期間における評価指標（案）】

- ✓ 三次救急患者の搬送件数、総救急搬送件数（二次救急患者を含む。）
- ✓ 搬送患者の疾患傾向、搬送地区分布、搬送時間帯
- ✓ 救命救急センターへの連絡回数、収容可能回答数、回答率、不応需数（二次救急）
- ✓ 収容不能理由、収容不能事案に対する院内検討状況
- ✓ 医師・看護師の勤務状況、実施可能な処置（手術）の状況